

風水害について

風水害とは、台風や集中豪雨、停滞前線によって起こる暴風や高潮、大雨による災害のことです。風水害についての正しい知識や対処方法、避難方法を知って身を守りましょう。

■ 内水はん濫と外水はん濫


水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなるにより起こるはん濫(内水はん濫)と、川の堤防が壊れたり、水が溢れたりして発生するはん濫(外水はん濫)があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

1 通常、降った雨は水路や下水道(雨水)などを通じて河川へ排水されています。



通常

2 大雨が降り、排水能力が雨量に追いつけなかった場合に、内水はん濫が起こり始めます。



内水はん濫の発生

3 さらに雨が激しく降ると、外水はん濫(洪水)の危険性が高まります。



外水はん濫の発生

その場で雨が降ってなくても、川の上流で降った大雨により、下流でははん濫が発生することがあります。

■ 大雨時に注意すること 遊びに行くときは、川の上流の天気予報もチェックしておきましょう。



急に空が暗くなってきた

雷が聞こえた

雨が降ってきたとき

川の水が増えてきたとき

▶ 川を見に行かない ▶ 車が浸かると動かなくなる

▶ 上流(山側)が暗くなったり、雷が鳴っているときは川に近づかない


川



急に空が暗くなったり、雷が鳴ったりすると、増水する危険性があるので、河原に近づかないようにしましょう。

■ アンダーパスに注意

アンダーパスとは、道路や鉄道などが立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に冠水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしものときに備えて迂回路を確認しておきましょう。



■ 雨の強さ・降り方と災害の危険性等

	やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返りで足元がぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

※表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生する場合や、小さな被害にとどまる場合もあります。

■ 風の強さと吹き方

※気象庁資料参照

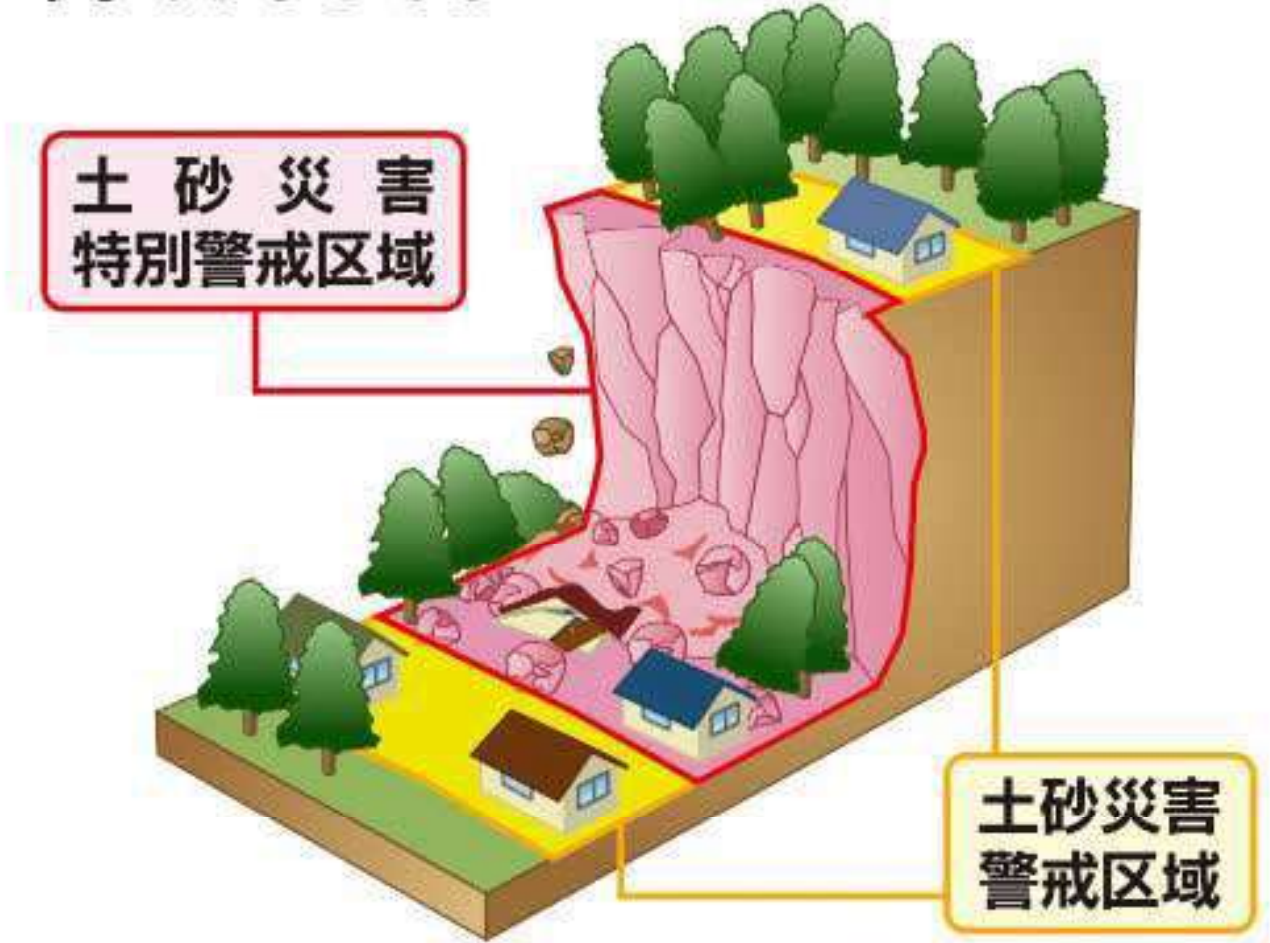
風の強さ(予報用語)	平均風速(m/s)	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物
やや強い風	10以上 15未満	●風に向かって歩きにくくなる。 ●傘がさせない。	●樹木全体が揺れ始める。 ●電線が揺れ始める。	●樋(とい)が揺れ始める。
強い風	15以上 20未満	●風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。 ●高所での作業はきわめて危険。	●電線が鳴り始める。 ●看板やトタン板が外れ始める。	●屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 ●雨戸やシャッターが揺れる。
非常に強い風	20以上 25未満	●何かにつかまっていなくて立ってられない。 ●飛来物によって負傷するおそれがある。	●細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 ●看板が落下・飛散する。 ●道路標識が傾く。	●屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 ●固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。
	25以上 30未満			
猛烈な風	30以上 35未満	●屋外での行動は極めて危険。	●多くの樹木が倒れる。 ●電柱や街灯で倒れるものがある。 ●ブロック壁で倒壊するものがある。	●固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。 ●養生の不十分な仮設足場が崩落する。
	35以上 40未満			
	40以上			

※平均風速は10分間の平均です。風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

■ 土砂災害の種類と前兆現象

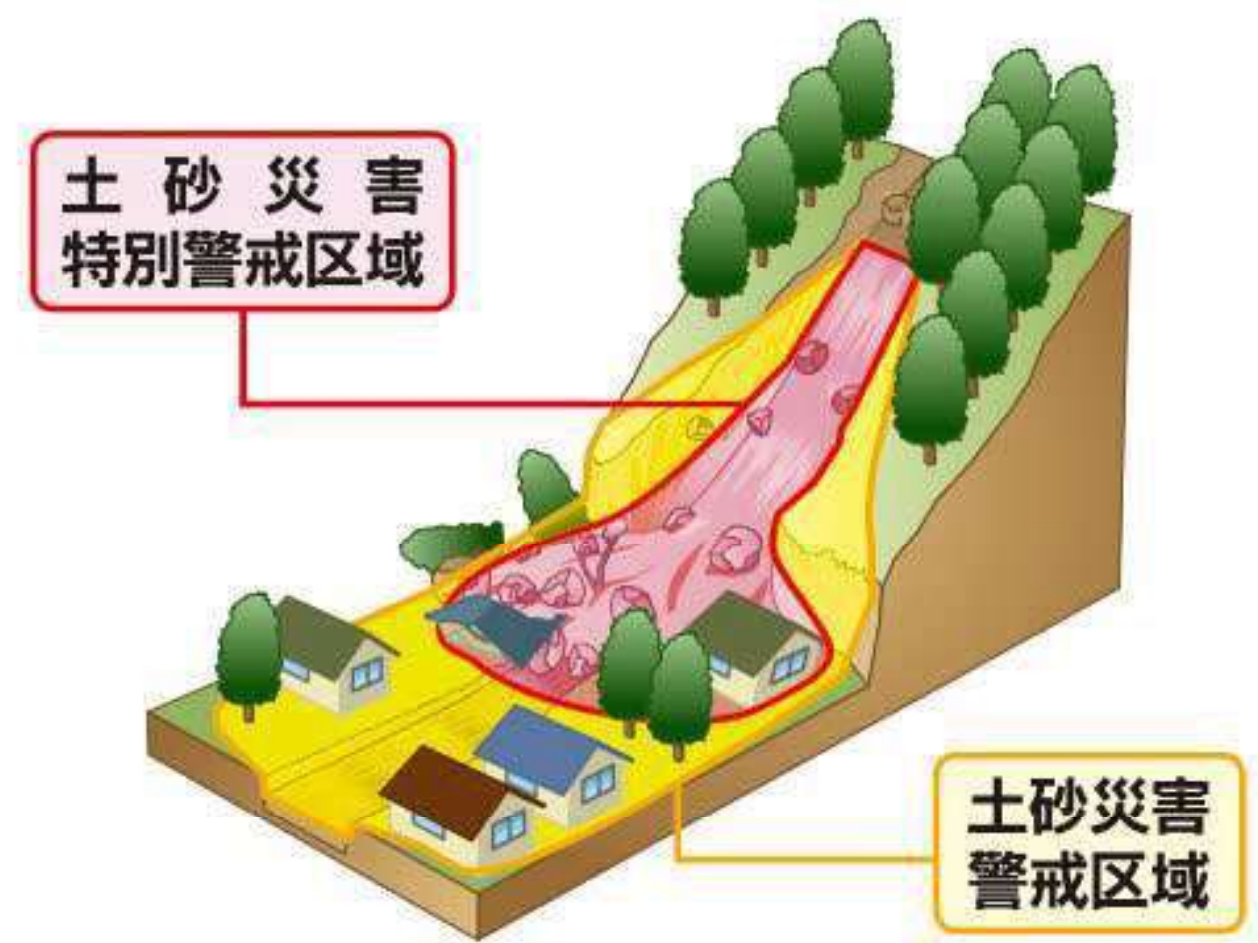
がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。



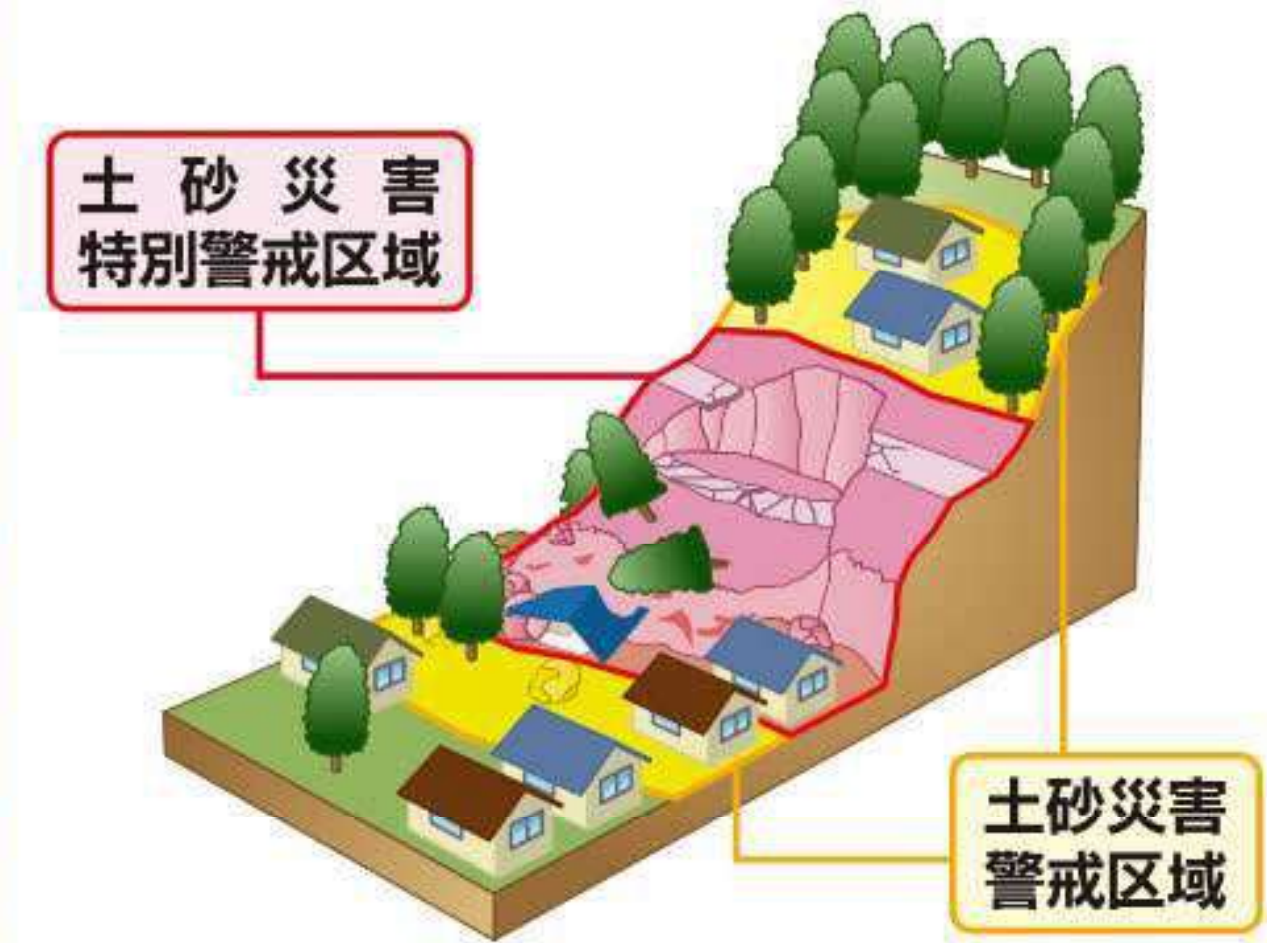
土石流

長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。

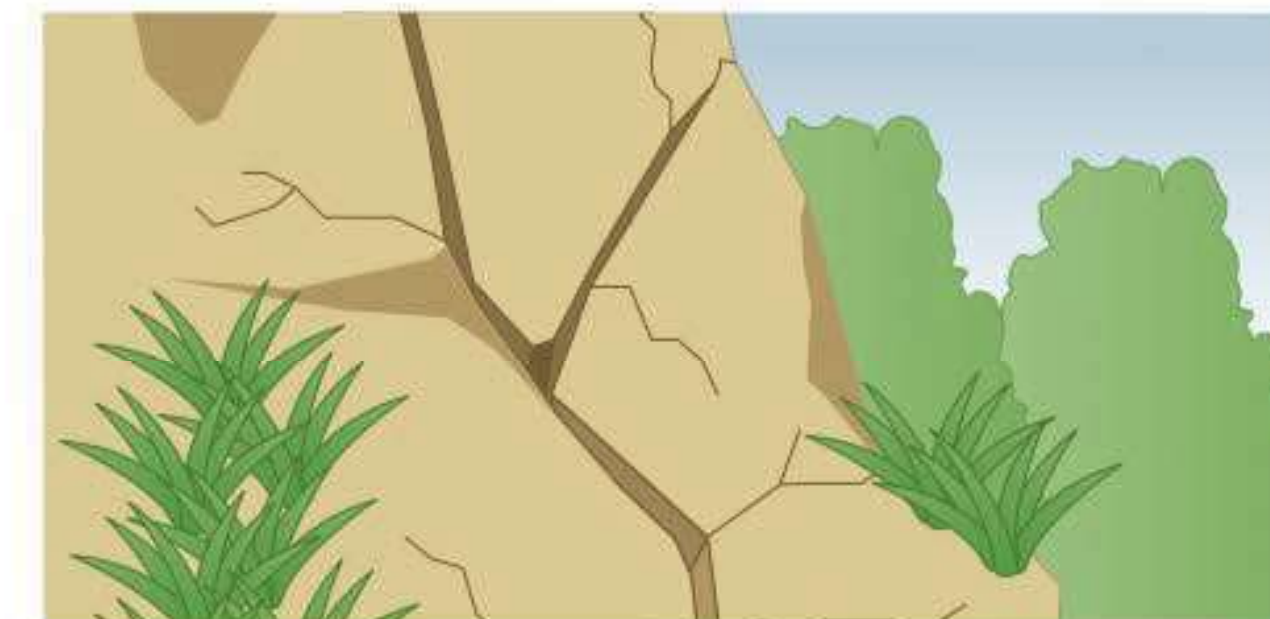


地すべり

大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだす現象です。



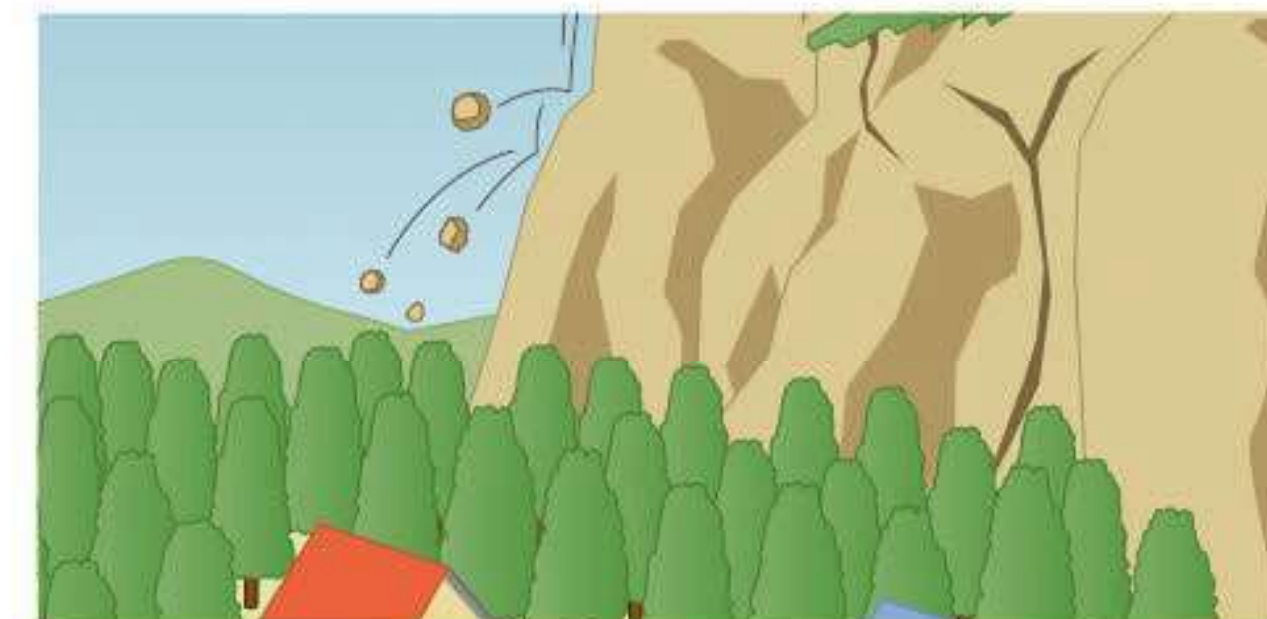
雨が降っていない時でも、土砂災害の前兆現象に注意しましょう。前兆現象を確認したら速やかに避難するとともに、町役場・消防にご連絡ください。 ※こちらで紹介した現象は、前兆現象の一部であり、これが見られなくても土砂災害が発生する可能性があります。



斜面にひび割れができる。



わき水の量が増える。



がけに亀裂が入ったり、小石が落ちてくる。

福岡県土砂災害危険度情報

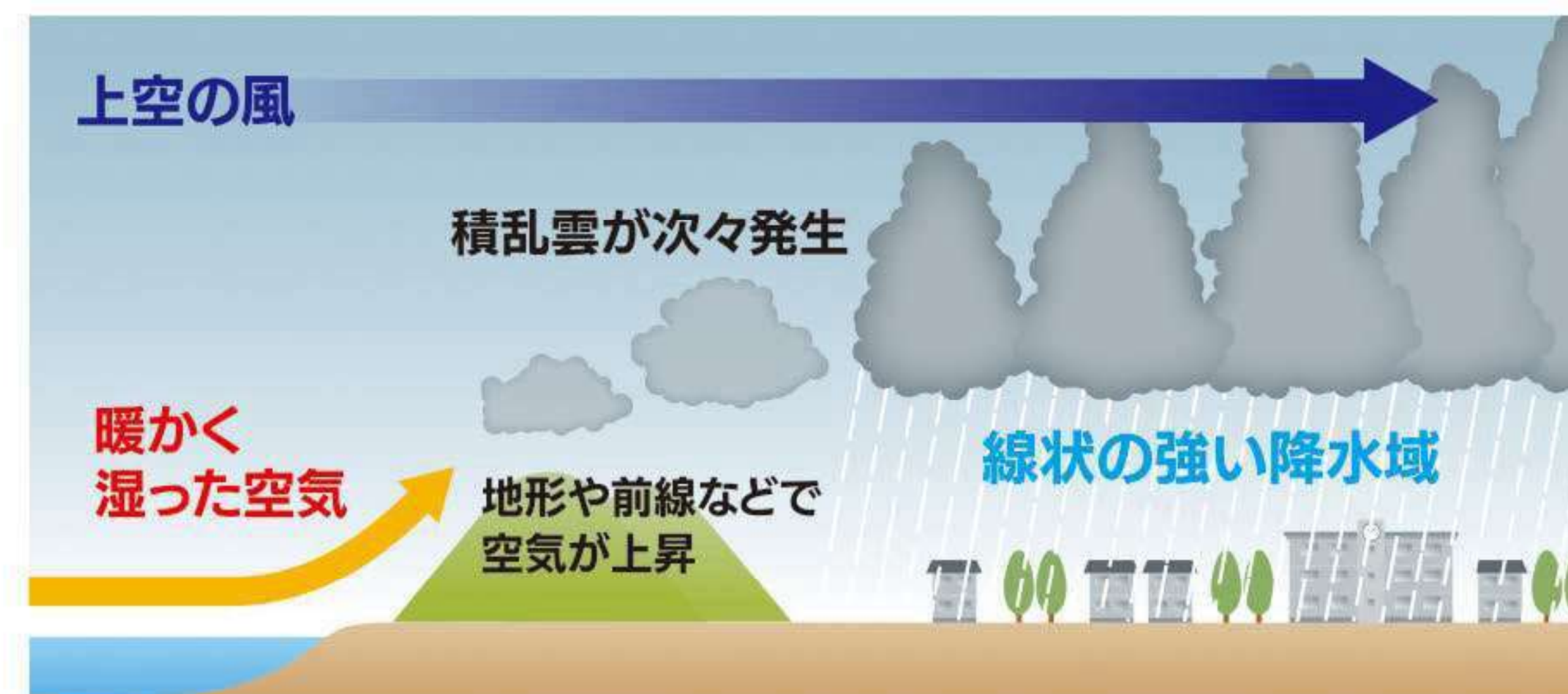
「福岡県総合防災情報 - 土砂災害危険度情報」は、どこで・どのくらい危険が迫っているかを地図上でリアルタイムに確認できるサイトです。

土砂災害は、雨が止んだ後や警戒情報が出ていない場所でも、地形や地質の条件によって発生するおそれがあります。他の防災情報や土砂災害の前兆現象にも注意を払いながら、早めの避難行動を心がけてください。



福岡県
土砂災害
危険度情報

■ 線状降水帯に気をつけよう

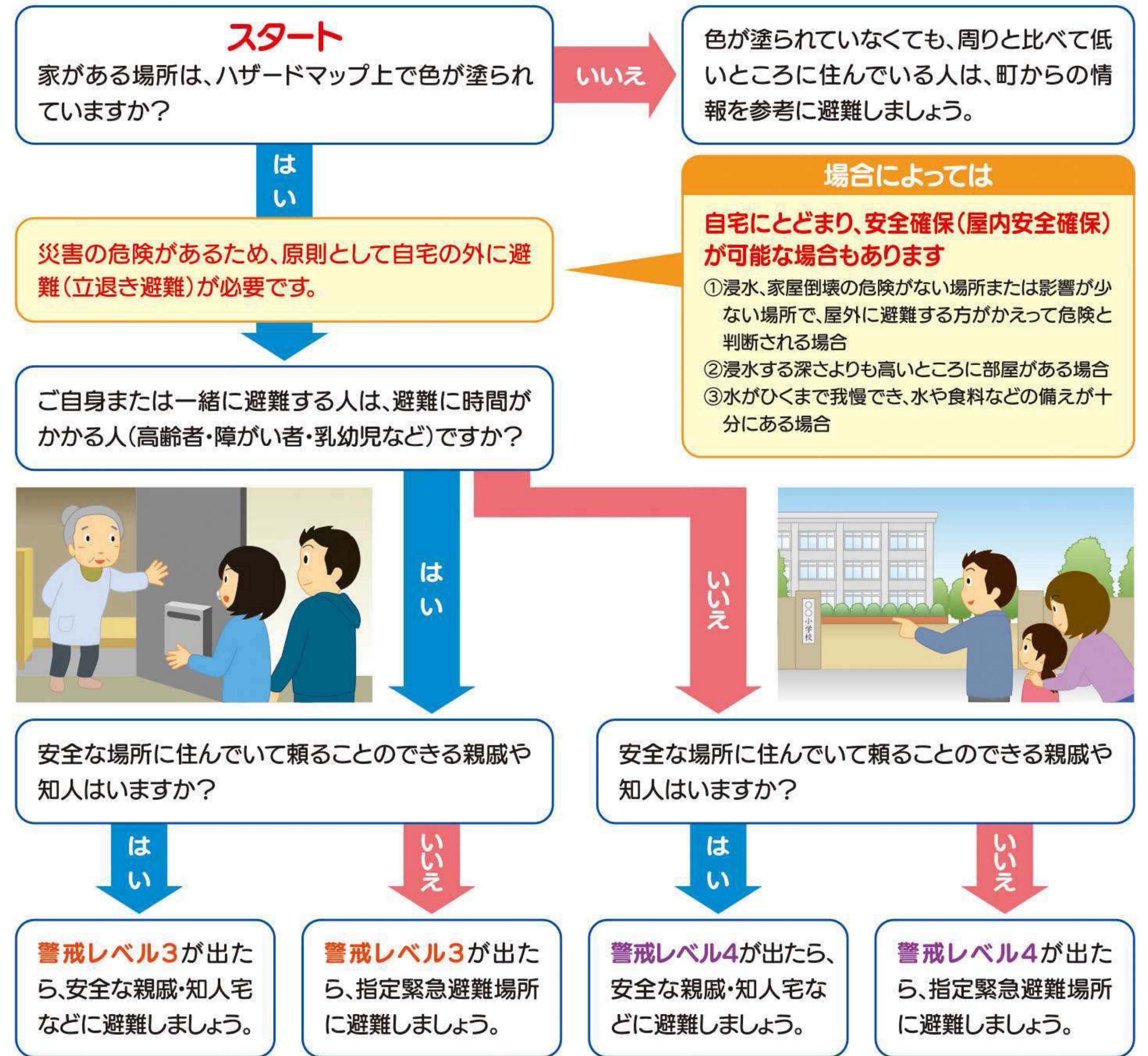


線状降水帯発生のメカニズム

線状降水帯とは、次々と発生する積乱雲が列をなし、同じ場所を通過または停滞することで、線状に伸びた地域に大雨を降らせるものです。線状降水帯は、数時間にわたって、とても強い雨を降らせるため、土砂災害などを引き起こすおそれがあります。

■ 避難行動判定フロー

台風・大雨時に備えて、避難行動判定フローを参考に、避難するタイミングを考えておきましょう。



- 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません。
- 避難先は町の指定した避難所だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル等に避難することも考えてみましょう。

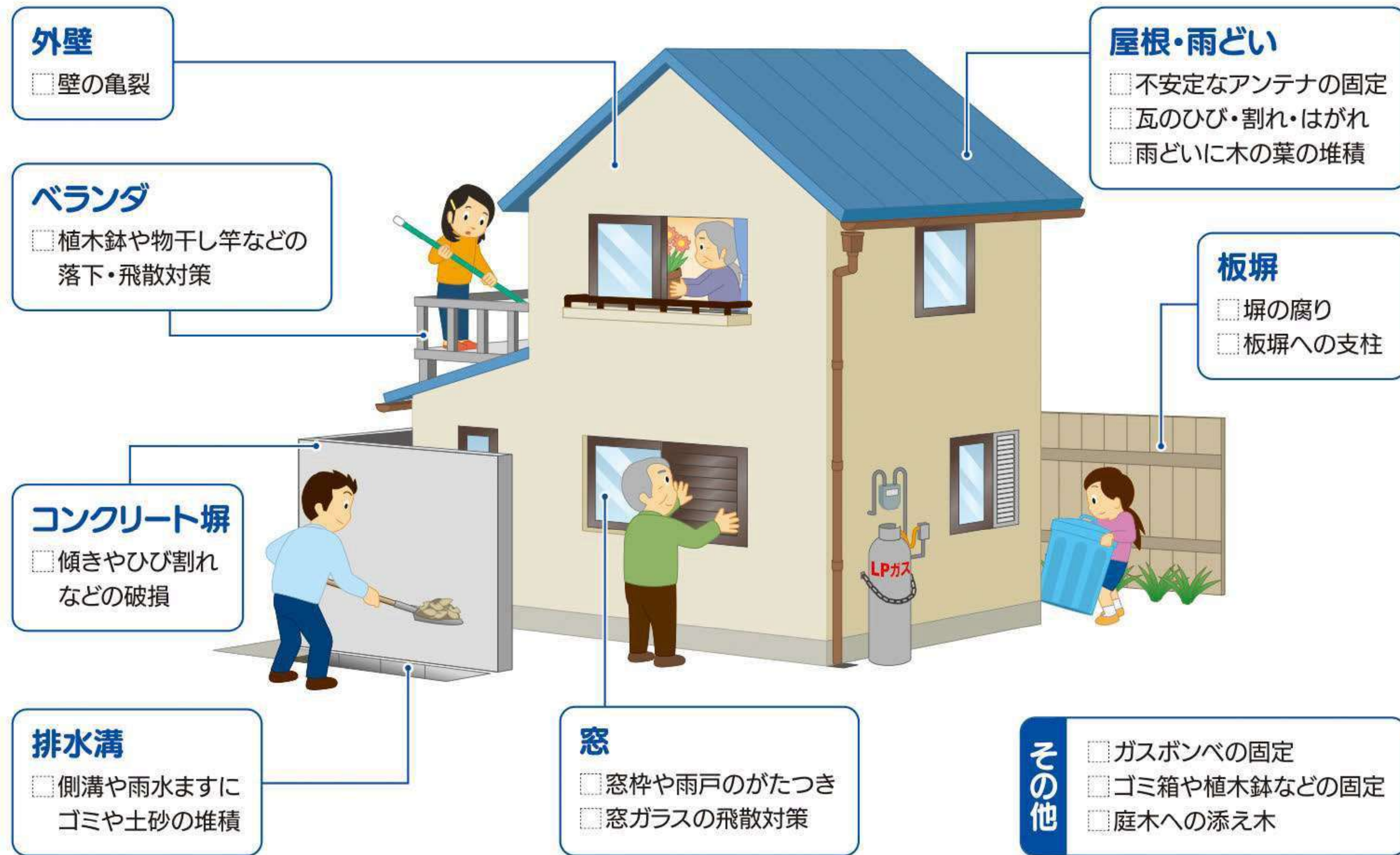


水平避難と垂直避難

危険が切迫している場合は、指定された避難場所等への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階以上といった高い場所へ移動(垂直避難)するなど、命を守る避難行動をとることが重要です。

■ 家の周りの片付け

風水害による建物の被害を抑えるため、下のイラストを参考に、点検・修理・補強を行っておきましょう。



■ 家庭でできる浸水対策

浸水が浅い場合には、プランターや長めの板(テーブルでも可)などを、ビニールシートに包んで設置する等の方法があります。



■ 台風時の停電への備え

台風時には被災状況によって停電が長期化することがあります。停電や停電に伴う断水に備えて、懐中電灯、防寒具、飲料水などを準備しておきましょう。



内水・土砂災害マップ 内水浸水想定区域について

内水浸水想定区域は、想定される最大の降雨が町内全域に一律に降ったと仮定して算出したもので、地形的に浸水しやすい場所を示しています。また、区画整理および港湾整備事業などの地形改変により、この浸水想定区域と異なる場合があります。

* 内水浸水想定区域のほか、福岡県が指定した土砂災害(特別)警戒区域をあわせて表示しています。
* 本マップの予測データは、以下の調査に基づいています。
● 公共下水道計画区域内: 令和7年2月実施のシミュレーション ● その他の地域: 平成31年3月実施のシミュレーション

想定降雨量 153mm/h 【参考】既往最大降雨(平成30年7月豪雨) ▶ 苅田町: 48mm/h ▶ 朝倉市: 139mm/h

実施機関: 苅田町下水道課(平成31年3月、令和7年2月)

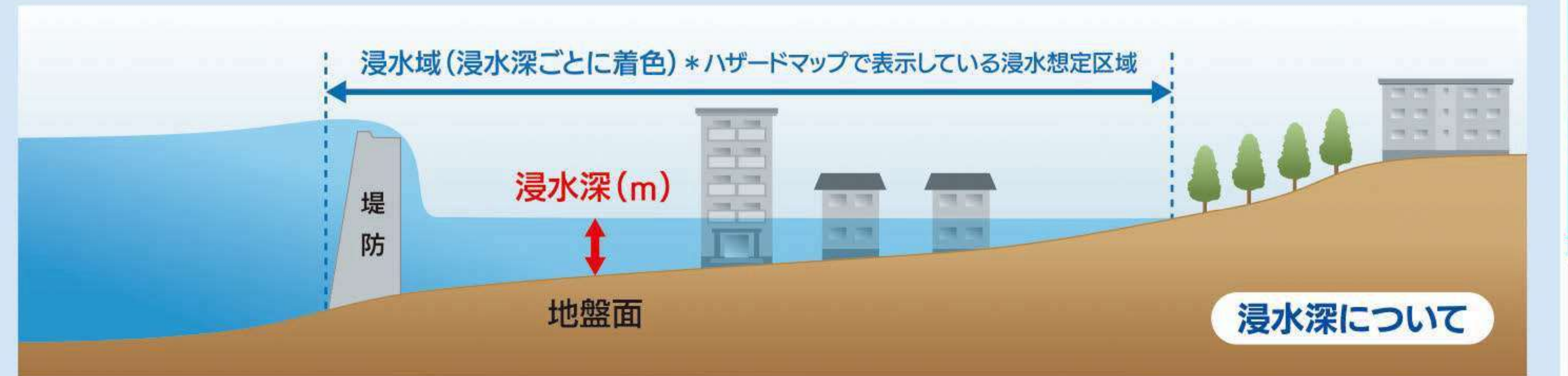
洪水マップ 洪水浸水想定区域について

このマップには、今川・長峽川・小波瀬川他の各浸水想定区域を重ね合わせ、深い方の浸水深を採用した浸水想定区域を示しています。なお、内水および高潮によるはん濫等は考慮されていません。

今川	長峽川・小波瀬川・白川・箕田川
想定最大規模降雨 今川流域の24時間の総雨量958mm	想定最大規模降雨 長峽川流域の9時間の総雨量729mm

実施機関: 福岡県河川管理課(平成30年4月、令和4年5月)

この防災情報マップに示す内水・洪水・高潮による浸水深は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。



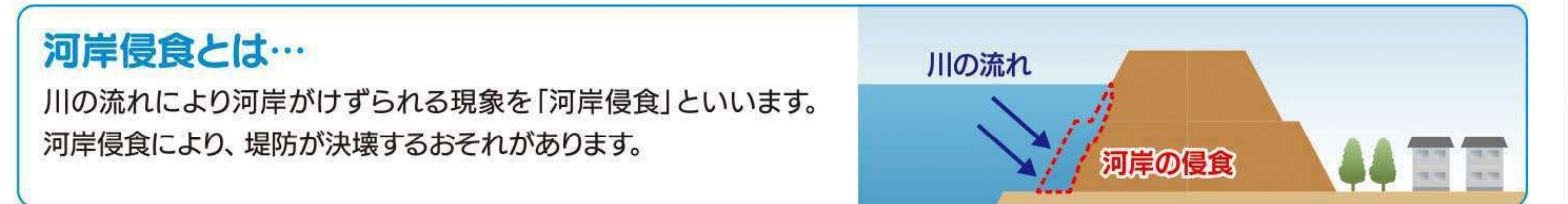
■ 早期の立退き避難が必要な区域

家屋倒壊等はん濫想定区域等にお住まいの方は、立退き避難が必要となる場合があります。

これらの区域では立退き避難をしてください

- 浸水深3.0m以上になる区域
- 洪水時に家屋倒壊の危険性がある区域
- 河川周辺の区域

河川の近くは、川の流れにより(はん濫や河岸侵食により)堤防が決壊した場合に家屋が倒壊する危険性があります。



● 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成について

浸水想定区域および土砂災害警戒区域内に立地する要配慮者利用施設の所有者または管理者は、避難確保計画の作成・報告および訓練の実施が義務付けられました。対象施設の所有者または管理者様におかれましては、水害や土砂災害に備え、利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、早急に適切な対応をお願いします。対象となる施設は、苅田町ホームページに掲載しています。